

受験番号	氏名

2025 年度Ⅱ期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程  
入学試験問題（専門科目）

（4 枚中 1 枚目）

※問題は 2 問あります。2 問とも解答して下さい。（解答用紙を含め、全部で 4 枚あります。）

問題 1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2 枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- (1) バンデューラ (A. Bandura) の理論において、自己効力感を高めるための方法として適切だとされているのは (①) である。
- (2) 内発的動機づけが高い者に対して、外的報酬を与えることで内発的動機づけが低下する効果を (②) という。
- (3) 日本に分析心理学と箱庭療法を導入したのは、(③) である。
- (4) 2018 年、ICD-11 で初めて登場した診断名で、持続的で深刻なトラウマに繰り返しさらされた結果として発生する、長期的で複雑な心理的障害のことを (④) という。
- (5) 他者や自分の行動や感情、思考の背後にある「心の働き」や「意図」を理解しようとする能力を指すタームであり、自分や他人の心の状態（感情、思考、意図など）に意識を向け、それがどのように行動に影響を与えているかを理解するプロセスのことを (⑤) という。
- (6) 児童期において、特に男子は同年代の仲間と閉鎖的な小集団を作り、その集団の決まりに服従し、仲間からの評価を重視するようになる。この時期のことを (⑥) という。
- (7) 凝集性の高い集団において、一致した合意形成を目指すような状況でしばしば観察される、非合理的で誤った考えや意思決定がなされる現象を (⑦) という。
- (8) (⑧) は、オープン・ダイアログにおいて、専門家が患者や家族の訴えを聞いた後、その患者たちの目の前で専門家同士が意見交換をし、それに対して患者や家族が感想を述べる、というやり方で用いられる。
- (9) 問題解決について、過去に経験した問題が現在の問題に似ているときに、過去に経験した問題の解決方法から現在の問題の解決方法を考えるやりかたがあり、これを (⑨) という。他方で、先の問題解決の成功体験が解決方法に対する構えを形成し、それ以外の解決法を考えるのを抑制することがあり、これを (⑩) という。
- (10) 内田クレペリン検査では、(⑪) の曲線は、2 分目以後下降し、4, 5 分目で一時上昇し、あとは最後まで下降する。(⑫) の曲線は、2 分目が急激に低下して、5 分目頃まで低下が続くが、6～10 分目頃から再び作業量が増加する。

受験番号	氏名

(4枚中2枚目)

- (11) 近年注目されている薬物依存症者の支援において、最初から断薬を目指すのではなく、薬物がもたらす心身や社会生活への悪影響の緩和を目的とする方法を、(13) ) という。
- (12) 心理学の実験において、独立変数と従属変数の因果関係の確かさの程度を表すものは、(14) ) である。
- (13) (15) ) が提唱したフォーカシングにおいては、すぐには言葉にならないような明確でない意味を含む身体感覚を重視する。

【語句選択用リスト】

A期	中期	SST	ジェンドリン	アンダーマイニング効果	エディプス期	エンハウジング効果
河合隼雄	外傷性精神障害	複雑性PTSD	ギャバード	ギャングエイジ	グループワーク	後期
心の理論	コラボレイティブ・アプローチ	最近接期	アルゴリズム	収束的妥当性	集団間葛藤	
集団極性化	中井久夫	集団討議	心的構え	推論	セルフコントロール	前期
トーケンエコノミー	内的妥当性	内容的妥当性	集団浅慮	認知的視点取得	ハームリダクション	類推
発達性トラウマ障害	ピグマリオン効果	機能的固着	フランクフル	メンタライゼーション	洞察	
モデリング	リスクマネジメント	リフレクティング・プロセス	小此木啓吾			